

平成20年度藤沢市相互提案型協働モデル事業申請一覧表

【市提案協働事業】

| No. | 事業名                        | 団体名                      | 企画概要   | 事業期間                | H21年度<br>団体事業費<br>総額 | H21年度<br>協働事業<br>申請額 |
|-----|----------------------------|--------------------------|--|---------------------|----------------------|----------------------|
| 1   | 藤沢の自然観察<br>ガイド作成事業         | 神奈川県植物誌<br>調査会藤沢グ<br>ループ | <p>藤沢市内各所に散在する自然の調査を通じ、数少ない緑の貴重さを市民に共通認識してもらい、その調査結果を活用し易い観察ガイドにまとめ、それを使って自然の大切さを共有して欲しいと願っている。</p> <p>既に南部地域では数ヶ所分が完成している。今回は多くの市民に利用されている大庭地域の僅かに残された自然について、更なる興味・関心を寄せて貰う為、市保有の動植物の情報提供を受けるとともに補足調査を加え、毎年テーマを決め、生きものの名や生きもののつながり等が容易に分かる観察ガイド形式にまとめる。</p> <p>又、成果物を基に近隣の小中学校や市民を対象に観察会を実施する。その折「藤沢市みどり基金」への協力を要請する。</p>   | H21年度<br>～<br>H23年度 | 515,000              | 500,000              |
| 2   | 高年齢者再就<br>職・起業支援セ<br>ミナー事業 | コスモスの会                   | <p>2007年問題では、金融機関や製造業などにおいて、基幹システムを構築した世代の定年による一斉退職により、日本を支える仕組みの継続が難しいといわれた。その現象を受けて、地域社会に有能な会社人間が解放されると考えられた。</p> <p>2008年を迎え、その動向を見ると、多くの企業は、雇用期間の延長・再雇用などの対策をとり、未だ会社人間としての活躍を期待されている。しかしながら、生業としていた職種を離れ、新しい生き方を選択するケースも見受けられてきた。</p> <p>その場合、技術面の資質向上より、職に対する意識の変革が求められ、生活観やライフワークバランスを見直すことも必要と考え、ニューライフセミナーを提案します。</p>  | H21年度<br>～<br>H23年度 | 630,000              | 500,000              |
| 3   | メールマガジ<br>ン<br>配信事業        | (特非)<br>地域魅力             | <p>市の発信する情報を提供するにあたり、読者が興味を持って目を通すような内容づくりに心がけ、親しまれるメールマガジンを配信する。</p> <p>そのために、市民の視点から生活に必要な有益な情報が流れるような仕組みづくりと働きかけを実施していく。</p> <p>市民が自身にとって有益な行政サービスや情報にふれることにより、地元自治体への愛着と理解を深め、地域との関わりが促進されることを目指す。</p> <p>また、市の全てのメール配信システムの運営を本NPOが行うことで、情報発信に関する複数の事業を連携させる足がかりとし、それぞれの情報や参加者をニーズに応じて行き来させるなど、よりの確で利便性の高い情報配信サービスを実現し、市民生活の向上を図る。</p>  | H21年度<br>～<br>H23年度 | 600,000              | 600,000              |
|     |                            | (特非)<br>藤沢市市民活動<br>推進連絡会 | <p>藤沢市内の情報求める全ての市民に、タイムリーに発信しましょう。現在の情報提供は、広報ふじさわをはじめとする紙媒体、ホームページに代表されるWeb媒体があります。それぞれに良い点と不都合な点があり、その、隙間を埋めるツールとして、メールマガジンによる情報提供は有効です。</p> <p>特に市民の90.5%※が所持しているといわれる携帯電話による情報取得は日常生活の一部です。又、価値観や生活観の多様化、多文化化による取得情報の選別も取得側に主導権がある現在、一律的な情報提供では、ニーズに応えることは出来ません。</p> <p>そこで、藤沢市内の情報を数種のカテゴリに分類し、情報取得者が選択できるように仕組みを構築し配信します。</p> <p>※総務省情報通信施策局(2008年5月13日更新)<br/>「通信利用動向調査報告書世帯編」より</p> |                     | 600,000              |                      |
| 合計  |                            |                          | 3事業－4団体  |                     | 2,345,000            | 1,600,000            |

【市民活動団体提案協働事業】 1/2

| No. | 事業名  | 団体名                                | 企画概要  | 事業期間           | H21年度<br>団体事業費<br>総額 | H21年度<br>協働事業<br>申請額 |
|-----|--|------------------------------------|---|----------------|----------------------|----------------------|
| 1   | 傾聴ボランティア<br>育成・派遣事業                                      | (特非)<br>シニアライフ<br>セラピー研究所<br>藤沢事務局 | 当団体の傾聴ボランティア育成・派遣事業については、3年計画で企画をしているものであり、藤沢市相互提案型協働モデル事業では、2年目にあたる「傾聴ボランティア初級講座・中級講座」を開催することができた。<br>実際に活動する中で、確かにある現場でのニーズを感じつつ、受講希望者の多さに、世の中で人の話に耳を傾けて聴く「傾聴」というものが、いかに関心が高いかを思い知らされた。<br>3年目に入ることにより、さらに専門的で多くの傾聴ボランティアが様々な現場で、傾聴ボランティアとして活躍ができるようになる。こらからの地域福祉の新しい担い手として、全国に波及するような最良なモデルを築くことを目指したい。                                    | H21年度<br>(単年度) | 1,247,200            | 941,200              |
| 2   | 団塊世代の就労<br>支援及び地域内<br>の社会貢献に寄<br>与する<br>「電気電子技<br>術講座」事業 | ふじさわ団塊塾                            | 1. 事業の目的<br>(1)世界的な資源環境情勢の変化で、これまでの「使い捨て」が見直されている。<br>(2)本事業は、廃棄電化製品の起こす資源環境問題解決策として、団塊世代を中心とする市民がリユース(修理再生)に必要な技術を習得することを目的とする。<br>(3)技術の取得は、同時に団塊世代の就労支援の一助となり得る。<br>(4)また、本事業を起点としてコミュニティビジネスの起業も期待できる。<br>2. 事業の内容<br>(1)藤沢市・市内大学・民間活動団体の協働で開催する技術講座である。<br>(2)講座の内容は実務的技術であり、一般市民の「モノ」への意識改善ができる。<br>(3)取得技術は、電化製品のリユース作業及び関連企業への就労に役立つ。 | H21年度<br>(単年度) | 2,200,000            | 2,000,000            |
| 3   | メタボ改善健康<br>ネットワークづくり<br>事業                               | (特非)<br>湘南ふじさわシニ<br>アネット           | 本事業は、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)にならない健康な身体づくりを推進し、さらに参加者を中心に輪を広げ、市民全体の健康への意識を向上させることを目的とする。健康教室(運動教室、栄養教室)を開催することにより、運動、食に対する関心を深めると共にメタボ改善継続のモチベーションを高める。さらに参加者が食と健康サイトに食事と運動を記録し、メタボ改善を図ることをサポートする。<br>本事業は、メタボ改善に効果があることが実証されている「インターネット健康コミュニティ」プログラム(慶応大学主催、鎌倉女子大協力)をベースにして両大学の協力を得て行う。  | H21年度<br>(単年度) | 1,795,500            | 1,615,500            |
| 4   | 障害者と市民に<br>よる地域家庭生<br>ごみ資源化協働<br>事業                      | (特非)<br>ポトビの会                      | 精神障害者地域作業所メンバーの地域社会参加機会および生活の場を広げるため、現行の藤沢小学校生ごみ堆肥化事業と協働して、藤沢小学校近隣町内会の協力を得て対象町内会の家庭生ごみを、精神障害者地域作業所メンバーが収集し、藤沢小学校の業務用生ごみ処理機まで運搬して投入する。また、できた堆肥を藤沢公民館等に運搬する。このことにより、地域社会の障害福祉への関心・理解を深める普及啓発を行うとともに、障害者作業所の活動が環境問題へも寄与することをアピールする。  | H21年度<br>(単年度) | 430,000              | 430,000              |
| 5   | シネコヤ事業   | (特非)<br>湘南市民メディア<br>ネットワーク         | シネコヤとはシネマの小屋を意味し、活動の基本は、芸術文化の再生、発掘、発信を目的としております。地域の映画人の映画上映や講演を行い、藤沢の映像文化を再生を目指します。また、市民が参加型で独自の作品を発表する場や、地域の映画人との交流場を作り、映像表現の楽しさを共有する場として世代を超えた芸術文化交流の場を作ります。地域図書館や映画館、青少年会館と提携し、月1回を目安に定期的に開催し、映像コミュニティーを立ち上げます。シネコヤは地域の映像資源の発掘と、発信を活性化させる事業です。   | H21年度<br>(単年度) | 1,590,320            | 1,290,320            |

【市民活動団体提案協働事業】 2/2

| No. | 事業名   | 団体名                          | 企画概要  | 事業期間           | H21年度<br>団体事業費<br>総額 | H21年度<br>協働事業<br>申請額 |
|-----|---|------------------------------|---|----------------|----------------------|----------------------|
| 6   | PC向け充実メールマガジン配信<br>+ウェブ掲載事業                                     | (特非)<br>地域魅力                 | 本事業では、藤沢市が提供する市政情報を中心に、本NPOが運営に携わる他のメール配信事業のダイジェスト、及び本NPOが収集する市域コミュニティ情報を編集して、パソコンで読まれることを想定した充実内容のメールマガジンを編集して配信する。配信内容はバックナンバー管理を合わせインターネット上に公開する。本事業により市内のさらなる情報化につとめ、もって市民生活の向上や各活動支援による地域活性を図ることを目的とする。  | H21年度<br>(単年度) | 562,000              | 500,000              |
| 7   | 藤沢の「食」による<br>シティプロモーション調査研究<br>事業                               | (特非)<br>地域魅力                 | 私たちは地域のイメージと、そこを訪れる大きな楽しみの一つに、その土地ならではの「食」を結びつけて考えることが多い。本NPOでは、藤沢市の「食」によるシティプロモーションについて、数年間にわたるスパンで実現していくことを念頭に置き、その初年度を本事業とする。実施にあたっては産・官・学の連携を含む地域の多様な主体により構成されるワーキンググループを、次年度以降も継続して取り組む活動の母体として立ち上げ、地域で興味関心のある個人や関係団体のネットワーキングを行うほか、事例に関する調査・研究、市民を交えたワークショップ等による意見交換を実施し、地域が一体となってシティプロモーションに取り組む素地を作る。             | H21年度<br>(単年度) | 1,040,000            | 700,000              |
| 8   | ジュニアライフ<br>セービング教室<br>事業  | (特非)<br>西浜サーフライフ<br>セービングクラブ | 藤沢市は全国有数の海水浴場を有し、年間400万人を超える海水浴客が訪れている。しかし2007年には2名の中学生が溺死する事故が発生するなど、子供を含め多くの水難事故が発生している。また海に近接しているという立地にありながら、小中学生が海について学ぶ機会が非常に少ない状況にある。<br>そこで、ジュニアライフセービング教室では、海という誇るべき資産を活かし、小中学生を対象とした、海の知識を学ぶプログラムを実施し、水難事故を減少させることを目的としている。事業内容は、海辺の小中学校を中心に18校(小学校は4-6年生、中学校は全学年)で基本的な海の知識及び安全管理に関する講演会を開催する。                   | H21年度<br>(単年度) | 915,000              | 915,000              |
| 9   | 「市民景観アドバイザー」の養成<br>市民を対象にした「みどりの講座」の開講<br>みどりのパトロール(美しい藤沢を目指して) | 鵠沼の緑と景観<br>を守る会              | 藤沢市の森林緑地率は33年間で約半減の8.59%(2005年)、鵠沼では緑被率が46年間で約半減の30.6%(1992年)の地区もある。<br>一方宅地の細分化は進み、ある鵠沼地区で46年間で約3倍の134区画(1992年)に増えている。<br>美しいまち並み景観は社会的資産であるとの認識で、これ以上の緑を失わずに景観を守りたい。<br>そこで、緑と景観の問題に対応できる「地域別市民景観アドバイザー」を養成する。<br>事業者に対する行政の土地開発・建築指導に加えて、市民が文化・景観・みどりを守ることの大切さを体系的に学習・体験し、緑のパトロールなどで地域が抱える情報を一元化し、行政と協働して美しい藤沢にしていきたい。 | H21年度<br>(単年度) | 1,970,000            | 1,428,000            |
| 合計  |   |                              | 9事業-8団体   |                | 11,750,020           | 9,820,020            |